

し与えた。苦みあるため摂水が減り、従って摂食が減少し、結果として体重の減少が見られた。しかしリズムは乱れなかった。0.1M酢酸を腹腔内投与し痛みを誘発したとき、リズムの乱れは顕著であった。しかし100mg/kgのアスピリンを痛みを誘発したマウスに与えると、完全

ではないが健康は時に近いリズムになった。アスピリンを単独で健康なマウスに投与すると、驚いた事にリズムの乱れが見られた。麻酔状態では流出熱量が検出出来なかった。これらの結果は全身熱測定がマウスの状態の測定及び個体の定義に役立つことを示唆している。

国際熱測定連合(ICTAC)入会のお誘い

国際熱測定連合 (International Confederation for Thermal Analysis and Calorimetry: ICTAC)は、熱分析とカロリメトリーの分野の唯一の国際組織である。日本熱測定学会も加盟しているが、個人会員としても入会できる。個人会員には年2回Newsが配布され、この分野のさまざまな国際的活動のニュースが直接入手できるほか、"For Better Thermal Analysis and Calorimetry" (傘下の各委員会の活動成果などを記載したパンフレット)と名簿が送られる。日本熱測定学会は加盟しているから、その会員の年会費は15スイスフラン(米ドル換算10\$)[非会員

は20スイスフラン、14\$]であり、トラベラーズ・チェックで送金できる。申込先は下記の通りであり、活動を記述したリーフレットは学会事務局(あるいは〒305 つくば市御幸が丘27 ダイセル化学工業(株)筑波研究所 小沢丈夫)から入手できる。

Dr. H. G. McAdie
H. G. McAdie Associates
Toronto, Ontario M4P 3B7,
Canada

新刊紹介

E. L. Charsley, S. B. Warrington, Ed.,

"Thermal Analysis

—Techniques and Application",

Royal Soc. Chem., (1992) pp.296.

英国化学会から出版されたこの単行本は、1991年9月12,13日にわたり英国で開かれた熱分析講習会にもとづいて編集された。DTA, DSC, TG, TG-DTA/DSC, EGA, TMA, 動的熱機械測定, 高温X線回折, 高温顕微鏡観察の技法が解説されている。その他、試料の測定している性質の変化速度、たとえば質量減少速度を一定に保つように温度を制御させる熱分析、速度制御熱分析、Controlled Rate Thermal Analysisも取り上げられている。これに当時のICTA会長、S. St. J. Warne教授によ

る熱分析入門およびICTA紹介の章が設けられ、ICTAC現副会長Charsley教授(編者)が熱分析の情報入手につき記述している。応用の解説を含め全体で15章である。

多様な応用分野の中から、高分子、医薬品、冶金と材料科学、鉱物と化石燃料、触媒が取り上げられ、それぞれの専門家により解説されている。この他に、とくに品質保証への熱分析の応用が加えられた。

このように多分野にまたがり多くの読者を対象として、入門的解説からやや専門的な記述まで含んでおり、わが国で出版されている単行本に似たような趣となっている。熱分析の性格によるのであろう。しかし、やや詳しくみると、解説内容の取り上げ方、強調点、例示などの点で独特のものがあがり、興味深い。わが国ではすでに同様な解説書が出版されているから、わが国の入門者には不向きであるが、むしろ、熱分析の講義や解説を行おうとする前に読み比べれば、いろいろと考えさせられ、示唆が得られるものと思われる。

(ダイセル化学工業(株) 小沢丈夫)